

# 園長通信

## (令和8年度5月号)

幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園  
園長 岡部 祐輝

### 【子どもたちの表現】

新しい学年・クラスで過ごし始め早1ヶ月。期待と不安が交錯する中、毎日子どもたちは園で新たな友達と時間を過ごしたと思います。4～5月は、夏に向かい、暑い日も増えますが、朝晩は肌寒い日があるなど、体調管理が難しい季節でもあります。そこに4月の慣れない環境での頑張りが重なり、体調を崩しやすい時期でもあると思いますので、ご家庭でも子どもたちのフォローを日々たくさんいただいたからこそ、成り立った幼稚園生活であったと思います。感謝申し上げます。

4月、園舎・園庭を回っていると様々なクラスで思い思いの子どもたちの「アイデア」や「表現」に触れることが多くありました。



子どもたちは身の回りにある素材や環境などから刺激を受け、「～ができそう」（仮説的思考）、「～してみようかな」（興味関心）などが高まることが多くあります。そして、チャレンジをすることで、「物事に変化」が起き、仮説の通りになることや、全く違う結果になるなどの次の展開につながります。このプロセスを経て、「楽しい」、「不思議」、「悔しい」、「成し遂げたい」などの様々な感情や思いと出会い、また次の行動につながっていくと考えています。

私たちはこれまで、「子どもたちの周囲の環境（保育環境）を豊かにする」ということに取り組んできました。特に、保育環境評価スケール（ECERS）を参考に、子どもの姿と、発達の中で大切な経験、保育者の意図を合わせて考えてきました。

本年度は、保護者の方にはすでにお伝えの通り、「**子どもの思い思いの表現が現れる保育活動の充実**」というテーマに基づき、保育のより一層の充実を図ることを考えています。今回は少しこの観点について説明をしたいと思います。

### 【子どもの表現を支えるための視点】

## ●子どもの「表現」を受容し、広げたり深めたりすることができる保育者の

### かかわり方の向上

子どもたちはよく、絵を描いたり、作品が出来上がったりと大人のところにもってきて、「できたよ！」と得意げに見せることがあります。この時に、「上手だね」、「素敵だね」と受け止める言葉や、評価的な言葉を伝えることは大人と子どものやり取りの中であろうかと思えます。しかし冷静に考えると、例えば「上手だね」の反対は「下手だね」であり、子どもが見せに来る際に、「私の作ったもの、評価してください」というスタンスで「見て！」と言っているわけではないことが多くあります。このような場面では皆さんはどのような言葉を子どもにかけられるでしょうか？

保育の場面でも日常的に既述の場面は見られます。おそらく、いわゆる肯定的な評価・言葉をかけると、子どもは一定満足し、また戻って作業の続きをすることもあると思えます。しかし、それではやり取りの中でもしかしたら広がったり深まったりしたかもしれない、アイデアや概念、知識との出会いを少なくしてしまう可能性があると考えています。「共感的な受け止め」に加え、子どもの思考を深めたり、次の意欲につなげたりするための「問いかけ」などを検討したいと考えています。

## ●自由で創造的な「表現活動」のプロセスを重視した保育活動の展開

過去の教育・保育活動などでは「一斉一律に同じことを行い、同じねらいで活動する」などのことがありました。その最たる保育活動の例は、「一斉に製作活動を行う」ということでした。例えば、春先などに・・・

「はい、いまからみんなでこのぼり製作をしたいと思えます。前に見本を先生が作りました。じゃあまずは紙を四角に切りましょう。切れたかな？お魚の形に次は切って・・・うろこは前に折り紙を置いているからそれを選んで貼りましょうね」



というような活動です。（ちなみにこのような活動を「季節の製作」と呼ぶことがあります）この活動では、「見本に近いものを作る」、「作る過程で全員が同じ技術やスキルを経験的に学ぶということが重視されています。しかしこの学び方は、個別性の高い幼児教育ではそもそも考え方として異なるものですし、現在の「個別最適な学び」を大切にしようとしている学校教育の流れで考えても、立ち止まって考える必要がある活動と言えます。

決められた素材や方法、道筋で行うのではなく、一人一人の使ってみたい素材や道具、方法を知り、チャレンジできる余白があること、そして自分で選び、考える、自己決定したとを感じる機会が大変重要になります。この展開をこの表現する活動（絵を描く・音を奏でる・踊りを踊るなどすべての表現）で重視したいと考えています。（＊発達や個人の違いなどを考慮し、道具などは安全配慮が必要な場面があるとも考えています）

## ●表現を支える豊かな環境の整備と、子どもの表現の魅力を伝える保育者の発信力向上

子どもたちの表現したいという思いを支える要素として、「環境」はこれまで同様大切な要素となります。特にその中でも、使い方や遊び方が多様であるものや、形が変化するもの（可塑性があるもの）などを子どもたちが選べるようにする環境は大切です。例えば、マジックテープでパリッと割れるピーマンのおもちゃは、「ピーマン」というイメージを持ちやすいですが、緑のスポンジがあると、ピーマンにもなり、デザートにもなるかもしれません。このようにイメージが多様に現れるものがあると、周囲の子どもたちの中で「対話」・「調整」・「合意形成」などが発生し、関係性を育む経験ができるようになります。（これは一方的な一斉活動では量的に少なくなります）

また、子どもたちが活動の中で創りだしたものだけではなく、特に「しようとしたもの」、「一見途中で終わったのでは？と思うもの」、「これは何？」と思うものなどを子どもの様子を見ながら、その意味や価値などを保育者が発信していくことも子どもの学び・育ちを伝えていくプロセスでは重要です。この観点についても研修等で学びながら高めたいと思います。

本年度もInstagramや各種通信で、子どもたちの発想・アイデア・考えなどをたくさん取り上げていければと思います。